

新潟市の国際交流

NIIGATA CITY'S INTERNATIONAL EXCHANGE PROFILE

2024



目次

はじめに	2
新潟市総合計画2030における施策の位置づけ	2
国際交流の推進	
第1章 北東アジア地域との交流の促進	
日本海拠点としての新潟(航路・航空路)	3
対岸各地との交流	
・ロシアとの交流	3
・中国との交流	4
・朝鮮半島との交流	4
様々な分野での国際的な取り組み	
・経済分野における取り組み	5
・観光分野における取り組み	5
・環境分野における交流	6
・文化を通しての交流	6
・スポーツを通しての交流	6
・青少年交流	6
交流を担う組織・機関	
・総領事館・名誉領事館	7
・新潟市の海外拠点事務所	7
・日ロ沿岸市長会	7
第2章 姉妹・友好都市、交流協定都市との交流の推進	
・都市間交流の様々なかたち	8
・ガルベストン市(アメリカ合衆国テキサス州)	9
・ハバロフスク市(ロシア連邦ハバロフスク地方)	10
・ハルビン(哈爾濱)市(中華人民共和国黒龍江省)	11
・ウラジオストク市(ロシア連邦沿海地方)	12
・ピロビジャン市(ロシア連邦ユダヤ自治州)	13
・ナント市(フランス共和国ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏ロワール・アトランティック県)	14
・ウルサン(蔚山)広域市(大韓民国)	15
多文化共生のまちづくり	
第3章 誰もが住みやすいまちづくり	
・多文化共生のまちづくりをめざして	16
・「災害時における在住外国人支援」の取り組み	16
・誰にでもわかりやすく伝えるためにー「やさしい日本語」	17
・公益財団法人新潟市国際交流協会	18
・新潟国際友好会館	19
・国際交流員	20
・広がる市民のボランティア活動	21
年表・資料	
・ガルベストン市(アメリカ合衆国テキサス州)	22
・ハバロフスク市(ロシア連邦ハバロフスク地方)	22
・ハルビン(哈爾濱)市(中華人民共和国黒龍江省)	23
・ウラジオストク市(ロシア連邦沿海地方)	23
・ピロビジャン市(ロシア連邦ユダヤ自治州)	24
・ナント市(フランス共和国ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏ロワール・アトランティック県)	24
・ウルサン(蔚山)広域市(大韓民国)	25
・新潟市と海外とのつながり	25・26

※本文中の年号表記は、略年表ページおよび歴史的事実に関しては西暦のみ、本市との交流に関することは、和暦と西暦を併記しています。



はじめに

古くからみなとまちとして発展してきた新潟市は、日米修好通商条約により開港五港の1つとなって以降、日本海沿岸地域をはじめ世界各地の都市と結びつきを深めてきました。

本市は現在、世界の7都市との間で姉妹・友好都市、交流協定都市提携を行っており、また、市内に3か国の総領事館が設置されていることや、国際港湾・国際空港が立地する優位性や拠点性を活かして、世界各地の都市との交流を推進しています。

2023年5月に本市で開催されたG7新潟財務大臣・中央銀行総裁会議では、食や伝統芸能をはじめとする新潟の魅力を、世界に向けて発信しました。会議の開催を契機に、官民一体となって国際都市としての基盤の充実を図り、その強みを生かしながら、さらなる交流人口の拡大や経済の活性化を図りたいと考えています。

また、本市には、外国籍や外国にルーツを持つ市民が多く暮らしていることなどから、日本語学習の支援や相互理解に向けた取組の推進など、外国籍市民の方にも暮らしやすい環境づくりに取り組むことで、「多文化共生」のまちづくりを進めています。

本冊子が、本市における今後の国際交流や多文化共生社会の実現に向けて、市民の皆さまと共に考える上で、その一助となれば幸いです。

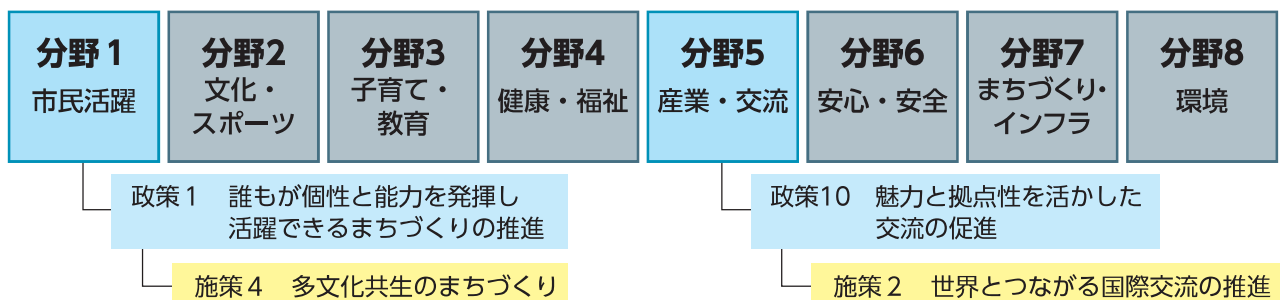
令和6(2024)年3月
新潟市長 中原 八一

新潟市総合計画2030における施策の位置付け

「新潟市総合計画2030」の基本構想・基本計画は、令和5(2023)年度から令和12(2030)年度までの8年間における新潟市の目指す都市像を示す計画です。

本冊子に記載の事業は、新潟市総合計画2030基本計画の政策・施策の体系において、「分野1 市民活躍」の「多文化共生のまちづくり」と、「分野5 産業・交流」の「世界とつながる国際交流の推進」に位置付けられます。

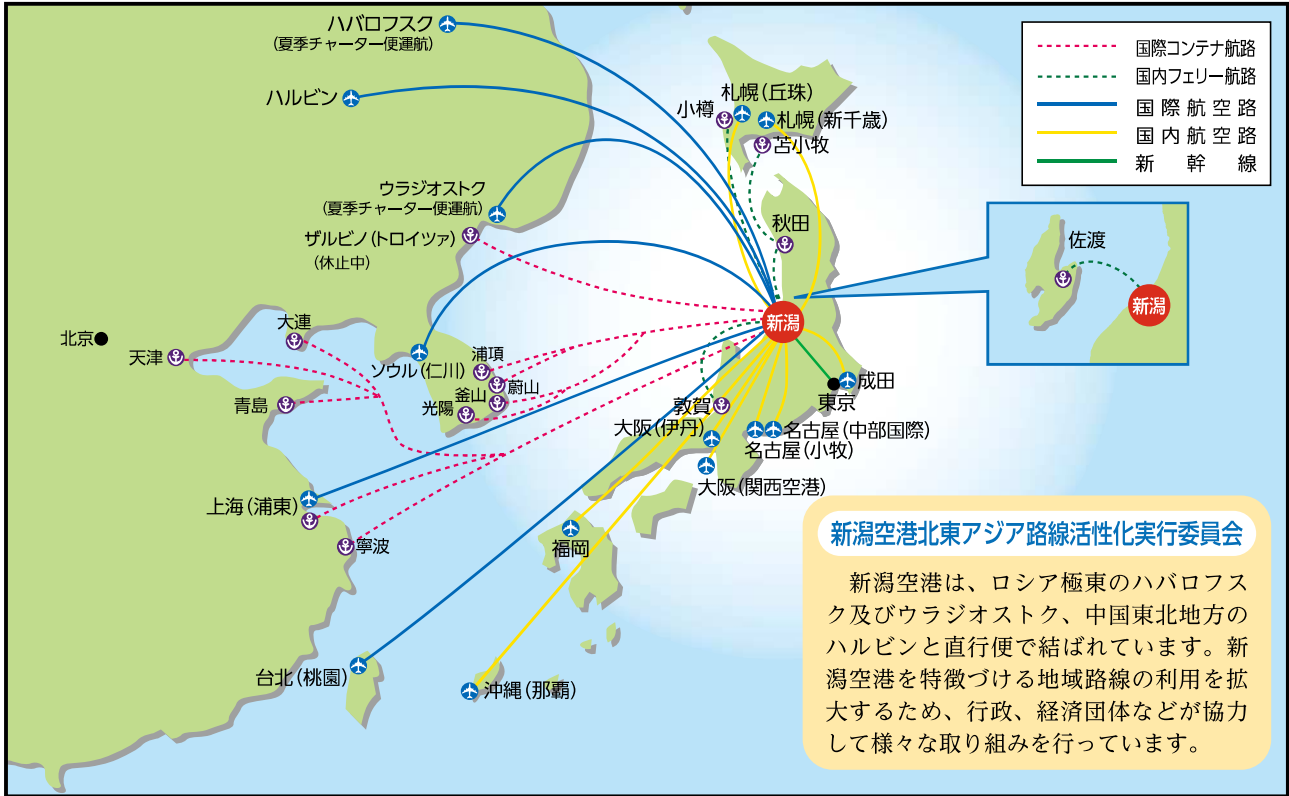
新潟市総合計画2030基本計画における政策・施策の体系



新潟市はロシア極東、中国東北地方、朝鮮半島などの対岸地域と歴史的に密接な関わりを持ってきました。国際拠点港や国際空港、新幹線や高速道路などの交通網を擁し、韓国・ロシア・中国の3総領事館が開設されている本市は、北東アジアをはじめ様々な国・都市と日本を結ぶ交流拠点となっています。

また、本市の海外拠点による情報収集・発信、企業の海外進出支援などを通して経済交流の促進に努めるほか、食と花、環境・エネルギー、文化・芸術、スポーツなど様々な分野で交流を行っています。

日本海拠点としての新潟(航路・航空路)



新潟空港北東アジア路線活性化実行委員会提供 R6.3 現在

対岸各地との交流

ロシアとの交流

新潟市は1960年代前半、日本海を挟んで向かい合う対岸諸国との交流の拠点となることを目指し、当時この地域で唯一国交が回復されていたソ連に目を向けました。昭和40(1965)年、ソ連極東の中心都市ハバロフスクと姉妹提携を行いました。その後、ウラジオストク、ビロビジャンとも姉妹都市となりました。また、平成6(1994)年9月には市内に新潟ロシア連邦総領事館が開設されました。

昭和48(1973)年にハバロフスク、平成5(1993)年にはウラジオストクと新潟を結ぶ定期航空路が開設され、日本とロシア極東をつなぐ数少ない直行便として長く利用されてきました。平成23(2011)年の東日本大震災以降は運休となりましたが、平成25(2013)年より令和元(2019)年まで夏季チャーター便が運航されました。

半世紀以上にわたる本市とロシア極東との交流は、文化やスポーツ、青少年、環境、経済など様々な分野で行われました。



▲昭和48(1973)年
新潟-ハバロフスク定期航空路開設

中国との交流

友好都市ハルビン市との相互理解や信頼関係を深める一方、中国との交流をさらに拡充していくため、平成19(2007)年4月、北京に日本の自治体としては初の単独事務所を開設しました。また、平成22(2010)年6月には市内に中華人民共和国駐新潟総領事館が開設されました。

そのほか、中国の様々な都市と継続的な交流を続けています。新潟市歴史博物館は、陝西省西安市にある西安博物院と平成19(2007)年5月に友好博物館(院)の提携を行いました。平成30(2018)年9月には歴史博物館において、西安博物院所蔵の文物展を開催しました。

山東省青島市とは市議会や観光分野で交流してきました。平成27(2015)年に両市が「東アジア文化都市」の日中の代表都市に選出されたことをきっかけに、文化交流を行っています。

山東省済南市とは平成20(2008)年9月に「友好交流に関する覚書」に調印し、青少年・文化交流を進めています。

平成27(2015)年からは、中華人民共和国駐新潟総領事館や新潟県等とともに、中国の旧正月「春節」を祝うイベント「新潟春節祭」を開催しています。中国の文化団を招聘してステージ公演を実施するなど、伝統芸術を楽しむイベントとして親しまれています。



▲令和5(2023)年3月
日中国交正常化50周年記念事業 新潟・ハルビン青少年オンライン囲碁交流

朝鮮半島との交流

第2次世界大戦後の新潟と朝鮮半島との交流は、昭和34(1959)年に新潟港が日本に残留した在日朝鮮人の帰還事業の発着地となることによって始まりました。当時の新潟市は人道的観点から事業を支援し、多くの市民が帰還者を見送りました。

ボトナム(朝鮮語で「柳」の意)通りの柳の木、白山公園の梅の木など、市内には帰還者が新潟市民に贈った記念物が今も残っており、当時の歴史を伝えています。

新潟港とウォンサン(元山)港の間には貨客船が往来するなど、新潟は交流の窓口となってきましたが、平成18(2006)年7月より船舶の出入りは途絶えています。

一方、大韓民国とは、1970年代後半に駐新潟大韓民国総領事館と新潟ーソウル定期航空路線が開設され、民間の経済交流を中心に発展してきました。

平成2(1990)年には新潟県の主導で「新潟県ソウル事務所」が開設され、経済だけでなく、文化、教育、スポーツなど交流の分野が広がりました。

平成14(2002)年のサッカーのワールドカップ日韓共催大会で新潟市は開催地の一つに選ばれ、このことがきっかけでウルサン(蔚山)市との交流が始まりました。

平成27(2015)年からは、「東アジア文化都市」のつながりで忠清北道のチョンジュ(清州)市とも交流しています。

平成28(2016)年からは、韓国の中秋(旧暦のお盆)を祝い、文化芸能公演等を楽しみながら日韓の友好親善を図るイベント「韓日ハンガウィ祭り」(総領事館主催)が市内で開催されています。



▲令和5(2023)年9月
「韓日ハンガウィ祭り」でのハンボク(韓服)ファッションショー

様々な分野での国際的な取り組み

経済分野における取り組み

新潟市は、発展する北東アジアに向かい合う地理的特性に加えて、新幹線をはじめとする鉄道網や、「訪日誘客支援空港」に認定されている新潟空港、国際拠点港湾の新潟港など高度な都市基盤を有しており、日本海側の人流・物流の拠点性を活かして、新たな国際ビジネスを生み出す環境の整備を進めています。

また、海外の企業との輸出商談会の実施や海外展示会に参加しており、近年では台湾・オーストラリア・フランスを中心に輸出の促進に取り組んでいます。

「食と花の世界フォーラム」

本市が誇る「食と花」をキーワードに、本市の拠点性の向上と、世界に貢献できる都市ブランドの構築を目指し、「食の国際見本市フードメッセinにいがた」や食に関する優れた取り組みを顕彰する「食の新潟国際賞」の表彰式などを開催しています。

開催15回目となった令和5(2023)年の「フードメッセ」は、過去最多となる488事業者が出展し、12,500人を超える来場者とのビジネス商談会を3日間開催しました。

同時開催の特別企画「にいがたお米の未来展」では米どころ新潟から米消費の新たな可能性を発信し、「6次化フェア」では6次化に取り組む事業者による高付加価値商品の展示・商談が行われました。



▲令和5(2023)年10月18日～22日 フランス/ディジョン市
「第11回『伝統と先端と』～日本の地方の底力～」



▲令和5(2023)年11月
「食の国際見本市フードメッセinにいがた2023」

観光分野における取り組み

観光分野では、東アジア地域やロシア極東地域のほか、日本に関心の高い国・地域からの誘客にも取り組んでいます。また、海外クルーズ船を積極的に誘致し、寄港の際には岸壁や市内でのおもてなし・交流を通して訪日客の本市への再来訪につなげています。



▲令和5(2023)年9月 シンガポール
観光展「Japan Travel Fair」へのブース出展(観光地やモデルコースなどの紹介)

環境分野における交流

潟をはじめとする本市の豊かな湿地環境やその保全等に関する地域の取り組みが国際的に高く評価され、令和4(2022)年11月に、ラムサール条約の湿地自治体認証を国内で初めて受けました。

この認証を契機として、湿地の保全や利活用をキーワードに、国際会議の誘致や参加および視察の受け入れなど、さらなる国際交流を図っていきます。



▲ラムサール条約締結国会議(COP14)認証式

文化を通しての交流

新潟市では、姉妹・友好都市をはじめとする世界のさまざまな都市と文化を通して交流を行っています。

東アジア文化都市

日中韓3か国の相互理解と多様な文化の国際発信力を高める国家的プロジェクト「東アジア文化都市」の平成27(2015)年の日本代表都市に選定されて以降、中国・青島市、韓国・チョンジュ(清州)市と、青少年や芸能団の相互派遣を中心に文化交流を行ってきました。コロナ禍以降も、青少年交流を中心にオンラインで交流を継続しています。



▲令和5(2023)年7月
東アジア文化都市交流事業
青少年オンライン交流(青島市との交流)

スポーツを通しての交流

新潟市武術太極拳連合会が、昭和60(1985)年からハルビン市との間で太極拳交流を行っていたほか、令和3(2021)年には東京2020オリンピック競技大会に出場したフランス空手チームが本市で事前合宿を行い、公開練習や市民交流が実施されました。また、平成12(2000)年からは、新潟市サッカー協会がウルサン市の少年サッカーチームと相互に訪問し親善試合を行うなど、交流が続いています。



▲令和3(2021)年7月
本市で事前合宿を行った空手のフランス代表チーム

青少年交流

新潟市では、姉妹・友好都市、交流協定都市等との間で青少年使節団の相互派遣を行ってきました。

新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけに、市内の小中学校と外国の学校とのオンライン交流を積極的に推進し、コロナ禍収束後は、相互派遣の再開に加え、引き続きオンライン交流を行うことで、より多くの子どもたちが外国の子どもたちと交流する機会を提供しています。



▲令和5(2023)年9月
新潟市と韓国ウルサン市の中学生によるオンライン交流

交流を担う組織・機関

総領事館・名誉領事館

総領事館の主な任務としては、自国民の保護、両国間の友好関係の促進、査証（ビザ）・証明書の発給などがあげられます。

名誉領事館は、両国のネットワーク形成等が主な任務ですが、査証の発給など総領事館に準じた役割を担う場合もあります。

こうした機関が新潟市に設置されていることにより、例えば、新潟で査証が取得できるなど、文化や経済面等での交流促進が期待されます。

総領事館

大韓民国総領事館	昭和53(1978)年開設
ロシア連邦総領事館	平成6(1994)年開設
中華人民共和国総領事館	平成22(2010)年開設

名誉領事館

フランス名誉領事館	平成5(1993)年開設
モンゴル国名誉領事館	平成19(2007)年開設

新潟市の海外拠点事務所

新潟市北京事務所

新潟市と中国との結びつきをさらに深めるため、首都・北京市に日本の地方自治体としては初の単独事務所を平成19(2007)年4月に開設しました。中国における新潟の情報の発信や、経済・観光交流の推進のため、以下のような活動を行っています。

- (1) 新潟市のPR、広報活動
- (2) 中国との経済交流推進支援(企業支援、観光客誘致など)
- (3) 中国の経済・産業情報の収集
- (4) 各種交流事業における連絡・調整



▲新潟市北京事務所



▲新潟市北京事務所
ホームページ



▲北京市内大型スーパーでの新潟市プロモーション

日口沿岸市長会

昭和45(1970)年、日本の日本海沿岸地域とロシア極東シベリア地域の友好親善と経済協力を促進し、両地域の発展を図るため、日ソ沿岸市長会が設立されました(平成4(1992)年、ソ連邦解体に伴い、会の名称を日口沿岸市長会に変更)。設立当初より新潟市長が代表幹事を務め、新潟市に事務局を置いています。

ロシア側カウンターパートであるロ日極東シベリア友好協会(会長・ハバロフスク市長)とともに半世紀以上にわたって日口沿岸市長会議を隔年で開催し、日口両地域の経済協力や観光交流などについて協議、会議での合意に基づき両国政府や関係機関への要望書の提出なども行いました。

■日口沿岸市長会 会員市(11市)

秋田市 新潟市 長岡市 上越市 佐渡市 富山市
高岡市 射水市 金沢市 敦賀市 舞鶴市

■ロ日極東シベリア友好協会 会員市(20市)

ピロピジャン市 ブラゴヴェシチェンスク市 プラーツク市 ワニノ市
ウラジオストク市 ドリンスク市 ジェレズノゴルスク・イリムスキー市
イルクーツク市 ナホトカ市 ネヴェリスク市
ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市 ポロナイスク市
ウラン・ウデ市 ハバロフスク市 ホルムスク市 シェレホフ市
ユジノ・サハリンスク市 ヤクーツク市
コムソモリスク・ナ・アムール市 マガダン市

都市間交流の様々なかたち

(1) 姉妹・友好都市

姉妹(友好)自治体交流は、自治体が行う国際交流施策の中核として重要な手法の一つです。

一般財団法人自治体国際化協会では、次に挙げる要件のすべてに該当するものを、「姉妹(友好)自治体」として取り扱うこととしています。

1. 両首長による提携書があること
2. 交流分野が特定のものに限られていないこと
3. 交流するに当たって、何らかの予算措置が必要になるものと考えられることから、議会の承認を得ていること

新潟市は、ガルベストン市(米国)、ハバロフスク市(ロシア)、ハルビン市(中国)、ウラジオストク市(ロシア)、ピロビジャン市(ロシア)、ナント市(フランス)の6つの姉妹・友好都市を持ち、交流を進めています。

(2) 交流協定都市

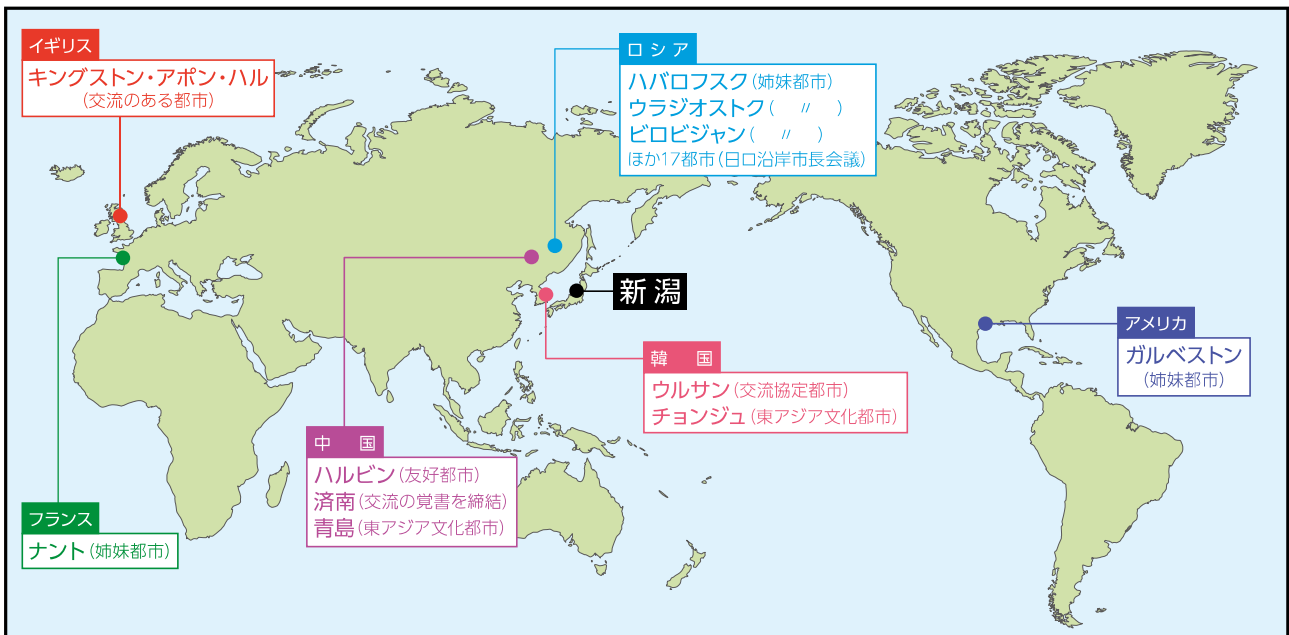
姉妹・友好都市に加えて相手都市との間で今後さらに交流を発展させたいという考えで一致した場合、その都市と「交流協定」を締結することがあります。

「交流協定」の内容は、相手都市との合意により交流分野を挙げるなど様々な形があります。

新潟市は、ウルサン広域市(韓国)と交流協定を結んでいます。

(3) その他の都市交流

「姉妹・友好都市」「交流協定都市」のほか、世界各地、各都市との交流を進めています。



「姉妹都市?それとも友好都市?」

日本では「姉妹都市」という呼び方が一般的に使用されていますが、これは元々アメリカで「Sister City」と呼ばれたことから、それを直訳した「姉妹都市」という呼び方が今日まで多く採用されてきたものと思われます。

中国の都市との提携の場合は、「姉妹」を用いると、どちらが姉か妹かという上下の関係となるため、「友好都市」という呼称が用いられています。



ガルベストーン市データ

- **位置** / 北緯29° 16' 西経94° 49'
奄美大島とはほぼ同じ緯度です。
- **日本との時差** / 通常-15時間 夏時間-14時間
- **面積** / 539.6km²
- **平均気温** / 1月14℃ 7月28℃
- **年間降水量** / 1,113.54mm
- **人口** / 53,641人(2021年現在)
- **市の花** / 夾竹桃(キョウチクトウ)
- **市の木** / ヤシの木
- **市の鳥** / ペリカン
- **市章** / 市内の海港博物館に係留されている歴史的に有名な商業帆船エリッサ号と市制が施行された年を表しています。



地理

- アメリカ合衆国テキサス州南東部沿岸、メキシコ湾に浮かぶガルベストーン島にある港湾都市。
- ヒューストンから車で1時間ほどの距離にあり、ガルベストーン島と本土との間は高速道路が走る約3キロの橋で結ばれています。
- 亜熱帯性気候のため、一番寒い1月でも平均気温は14℃と温暖です。最も暑くなるのは7月ですが、平均気温は28℃程度です。

歴史

- ガルベストーンの名は、1777年にこの地を占領したスペイン総督、バルナル・ド・ガルベス伯爵の名に由来します。
- 1839年、ガルベストーン市が創立されると、商業・金融の中心地として繁栄し、「南部のウォール街」と呼ばれました。

- 1900年と2008年にハリケーンにより大きな被害を受けましたが、めざましい復興を遂げています。

都市の特徴

- 気候が年間を通じて温暖なため、リゾート地として人気があり、ビクトリア調の建造物が歴史を感じさせます。コンベンションやクルーズ船の誘致などと併せて観光都市としての発展をめざしており、2022年には過去最高となる810万人の観光客が訪れました。
- 天然の良港であるガルベストーン港は、内外交易のタンカーや貨物船の寄港地で、綿花や硫黄、石油、小麦の積出港となっています。また、カキ、カニ、小エビ漁が盛んです。
- やけどの治療で世界的に有名な医療施設を併設するテキサス大学医学部ガルベストーン校があり、病院・研究機関などからなる一大キャンパスを形成しています。

【提携年月日】

昭和40(1965)年1月28日
ガルベストーン市において
共同声明を発表した日



▲昭和40(1965)年1月
両市長による共同声明

【提携の経緯】

- 市民の要望を受けて、アメリカ合衆国の都市との姉妹都市提携のための調査を進めていたところ、昭和39(1964)年、当時新潟市にあった新潟アメリカ文化センターの館長セオフィラス・アッシュフォード氏がテキサス州出身であった縁などから、新潟と同じ港湾都市のガルベストーン市を提携先として薦められ、翌年の提携に至りました。

【フォトコレクション】



▲ガルベストンのまちなみ



▲カトリックの年中行事に由来する祭り「マルディグラ」のパレード



▲ガルベストーン鉄道博物館の展示車両



▲令和5(2023)年11月
ガルベストーン市で8回目の鯛車教室

姉妹都市 ハバロフスク市 ロシア連邦ハバロフスク地方



ハバロフスク市データ

- 位置 / 北緯48°29' 東経135°04'
北海道より北に位置します。
- 日本との時差 / +1時間
- 面積 / 386km²
- 平均気温 / 1月-19.8℃ 7月21.3℃
- 年間降水量 / 684mm
- 人口 / 611,292人(2021年現在)
- 市章 / ハバロフスク地方に住むツキノワグマとトラが盾を抱えています。盾には、ハバロフスクがアムール川とウスリー川の合流地点に位置し、豊かな自然に恵まれていることが表されています。



地理

- ハバロフスク市は、アムール川中流域東岸に位置するハバロフスク地方の州都です。夏は気温、湿度ともに高く、一方、冬は気温が低く雪の少ない気候です。

歴史

- ハバロフスクという名は、17世紀のロシアの探検家エロフェイ・ハバロフにちなんで付けられたもので、鉄道駅の前にハバロフの記念像があります。

都市の特徴

- ハバロフスクは、シベリア鉄道、河川交通、航空路が交わるロシア極東の重要な交通拠点です。
- 市内には、博物館、劇場、コンサートホール、アイスアリーナなどの文化・スポーツ施設、また太平洋大学、鉄道大学、医科大学、体育大学などの高等教育機関や科学アカデミーの支部、学術研究所が多数あります。平成5(1993)年には、日本総領事館が開設されています。
- ハバロフスク市内を流れ、中国との国境の一部を構成するアムール川(中国名「黒龍江」)は、北流してオホーツク海に注ぎます。冬には完全に凍結し、氷の上で釣りを楽しむ市民の姿は、冬

の風物詩です。川沿いには公園や船着き場が整備され、市民の憩いの場となっています。

【提携年月日】

昭和40(1965)年4月23日

新潟市において姉妹都市提携の宣言に調印した日



▲昭和40(1965)年4月
姉妹都市提携(新潟日報社提供)

【提携の経緯】

- 昭和37(1962)年に新潟市長がハバロフスク市を訪問して両市の交流促進について協議し、昭和38(1963)年に駐日ソ連大使が新潟市を訪問して以来、両市の間で児童画や版画などの交換が始まりました。
- その後、行政や各界の指導者が相互に訪問。昭和39(1964)年の新潟地震の際には、震災直後に救援木材が寄贈され、両市の関係が深まりました。

【フォトコレクション】



▲アムール川沿いに広がるハバロフスク市



▲冬のハバロフスク



ハルビン市データ

- **位 置** / 北緯44° 04'~46° 40'
東経125° 42'~130° 10'
稚内とほぼ同じ緯度に位置します。
- **日本との時差** / -1時間
- **面 積** / 5.31万km²
- **平均気温** / 1月-18.3℃ 7月23℃
- **年間降水量** / 480.3mm
- **人 口** / 939.5万人(2022年現在)
- **市 の 花** / ライラック
- **市のシンボル** / 人民防洪勝利記念塔

地理

- 中国東北部に位置し、黒龍江省の省都です。
- 北京から飛行機で2時間、高速鉄道で5時間ほどの距離にあります。
- 湿潤大陸性気候に属し、真冬の最低気温は-30℃になることもあり、厳しい寒さから「氷の都」とも呼ばれています。

歴史

- 12~13世紀に中国北部を支配した女真族(後の満州族)が興した「金王朝」の最初の都・上京会寧府は、現在のハルビン市阿城区に置かれました。また、同じ満州族の「清王朝」は東北地方に根拠地を置き17世紀に中国を統一しました。こうしたことから、ハルビンは清王朝発祥の地とされています。
- 19世紀末、シベリア鉄道の支線である東清鉄道の建設拠点として、急速な都市化が進みました。最盛期には、世界33か国約16万人の外国人が居住し、19か国の領事館が設置されるなど、早くから国際都市として発展していました。

都市の特徴

- 市中心部にはロシア風建築・街並みが保存されており、「東方のモスクワ」「東洋の小パリ」等とも呼ばれてきました。
- 氷と雪をテーマにした「ハルビン国際冰雪節」は国内外から多くの観光客が訪れます。

- 平成8(1996)年には冬季アジア大会、平成21(2009)年には冬季ユニバーシアード大会が開催されました。
- トウモロコシやコメ、大豆等の穀物の栽培が盛んに行われ、ハルビン市に属する五常市等の地域で作られた米は中国では高級ブランド米となっています。
- ハルビンビールは中国で最初に生産されたビールで、毎年夏にハルビン国際ビール祭りが開催されます。
- 市内に多くの湿地があり、2018年に「ラムサール条約」湿地都市に認定されました。

【提携年月日】

昭和54(1979)年12月17日
新潟市において議定書調印の日



▲昭和54(1979)年12月
友好都市提携

【提携の経緯】

- 戦前、新潟から多くの人々が黒龍江省に渡ったこともあり、新潟と黒龍江省には深い縁がありました。
- 昭和53(1978)年からは、亀田郷土地改良区が黒龍江省三江平原の土地改良事業調査に協力するなど、日中友好に寄せる市民の関心も高まり、提携が実現しました。

【フォトコレクション】



▲1907年に建築された「聖ソフィア教会」(現在の建築芸術博物館)



▲ハルビン国際冰雪節



▲音楽公園の巨大雪だるま



▲ロシア風の建築物が並ぶ中央大街

姉妹都市 ウラジオストク市 ロシア連邦沿海地方

第2章

姉妹・友好都市、交流協定都市との交流の推進



ウラジオストク市データ

- 位置 / 北緯43°06'30" 東経131°55'
札幌とほぼ同じ緯度に位置します。
- 日本との時差 / +1時間
- 面積 / 561km²
- 平均気温 / 1月-12.3℃ 7月19.8℃
- 年間降水量 / 840mm
- 人口 / 629,200人(2021年現在)
- 市の花 / イソツツジ
- 市章 / 盾の中の虎は、沿海地方の豊かな自然を象徴しています。



地理

- ウラジオストク市は沿海地方の州都で、ロシア極東最大の港湾都市です。ムラヴィヨフ・アムールスキー半島の南端に位置しています。暖かい春、雨の多い夏、乾燥した秋、風が強く雪の少ない冬と、季節ごとの特徴がはっきりしています。

歴史

- ウラジオストクは1860年に軍港として建設されました。古くから日本とも深い関わりがあり、明治時代には大勢の日本人が市内に居住し、日本総領事館が設置されていました。1880年に市制が敷かれ、沿海地方の州都になりました。
- 太平洋艦隊の母港として長い間対外的に閉鎖されていましたが、1992年1月に開放されました。1993年には、在ウラジオストク日本総領事館が再開されました。

都市の特徴

- ウラジオストクは、シベリア鉄道の発着点です。また、ロシア極東地域における主要港の一つであるウラジオストク港は、アジア太平洋地域に開かれた海の玄関口となっています。
- 平成24(2012)年9月、ロシア初のAPEC(アジア太平洋経済協力)首脳会合がウラジオストク

で開催されました。APECにあわせ、大規模なインフラ整備が行われ、世界最大規模の斜張橋の建設や会場となったルースキー島の開発などにより、街の様子が大きく変わりました。

- 市内には、ロシアの名門マリインスキー劇場の傘下にある「マリインスキー・沿海州劇場」があり、観光名所の一つとなっています。

【提携年月日】

平成3(1991)年2月28日

新潟市において姉妹都市提携の宣言に調印した日



▲平成3(1991)年2月
姉妹都市提携

【提携の経緯】

- 昭和62(1987)年、ウラジオストク市で開催された沿岸貿易見本市に新潟市が参加して以来、港湾都市同士として両市間の往来が始まりました。
- 平成元(1989)年には新潟港から戦後初の観光船がウラジオストク港に向けて出港しました。その後、使節団の交換などの交流を経て、ウラジオストク市の公式開放を待たずに姉妹都市の提携を行いました。

【フォトコレクション】



▲金角湾とウラジオストク市街地



▲シベリア鉄道の起点となるウラジオストク駅



ビロビジャン市データ

- **位置** / 北緯48° 47' 34" 東経132° 55' 25"
ハバロフスクとほぼ同じ緯度です。
- **日本との時差** / + 1 時間
- **面積** / 169km²
- **平均気温** / 1月-25℃ 7月25℃
- **年間降水量** / 640mm
- **人口** / 70,433人(2021年現在)
- **市章** / 水色の盾に描かれる銀色の柱は、ユダヤ教の古いシンボルであるメノーラー(燭台)を象徴しています。下の方の半円部分の波状の線は市内を流れるビラ川を、緑の半円と銀色の突起物は、ビラ川のほとりの丘とその上にあるテレビ塔を表しています。



地理

- ビロビジャン市は、アムール川を隔ててハバロフスク地方に隣接するユダヤ自治州の州都です。
- 典型的な大陸性気候で、冬季の気温は-20℃以下になることもあります。

歴史

- 19世紀末、シベリア鉄道の建設開始と共に多くの建設労働者が極東に入植し、ビロビジャンは、1912年に開設された駅から発展しました。1928年、この地区がユダヤ人入植地に指定されるとユダヤ人が移住するようになりました。1934年のユダヤ自治州設立とともにその州都となり、1937年に市制が敷かれると、ビロビジャンと命名されました
- 市名は、付近を流れるビラ川とビジャン川にちなんでつけられました。

都市の特徴

- ビロビジャンは、シベリア鉄道や国道沿線の拠点で、ハバロフスクから西に約170kmに位置し、日帰りでも訪問ができます。
- 市内にはユダヤコミュニティセンター「フレイド」や

シナゴーク(ユダヤ教会)があり、ユダヤ民族の歴史的文化遺産の発展と普及が図られています。市内の標識にはロシア語とイディッシュ語が併記され、2つの言語で発行されている新聞もあります。

- 杉原千畝の「命のビザ」により、ユダヤ人が欧州からロシアを經由して日本に逃れる際に、シベリア鉄道でビロビジャンを通ったことが縁となり、平成29(2017)年9月、ビロビジャン駅に杉原千畝記念プレートが設置されました。駅舎には由来についてロシア語、英語、日本語、イディッシュ語の4つの言語で書かれたプレートが掲げられています。

【提携年月日】

平成17(2005)年3月21日

新潟市と豊栄市が合併し、豊栄市とビロビジャン市の姉妹都市関係を引き継いだ日



▲平成17(2005)年3月
姉妹都市提携

【提携の経緯】

- 平成17(2005)年3月、新潟市と豊栄市が合併したことにより、平成4(1992)年8月に提携したビロビジャン市と豊栄市の姉妹都市関係を新潟市が引き継ぎました。

【フォトコレクション】



▲ビロビジャン鉄道駅



▲ビロビジャン駅に設置されている杉原千畝記念プレート



ナント市データ

- **位 置** / 北緯47° 13' 西経1° 33'
北海道より北に位置します。
- **日本との時差** / 通常－8時間 夏時間－7時間
- **面 積** / 65.19km²
- **平均気温** / 1月6.6℃ 7月20.1℃
- **年間降水量** / 820mm
- **人 口** / 320,732人(2020年更新)
- **市 章** / 上部はブルターニュ公爵の城、下部は18世紀に盛んだった海洋貿易で大西洋に乗り出した船を表しています。ネプチューンはナントの守り神とされており、思い切りの良い者にチャンスを与えるという意味があるとされています。



地理

- フランス北西部、フランス最長のロワール川の下流に位置する、水と緑に囲まれた美しい街です。
- パリからはTGV(高速鉄道)で約2時間の距離にあります。
- 西岸海洋性気候に属し、夏は晴れの日が多いものの比較的涼しく、冬は暖流の影響により高緯度でも穏やかで雨が多いです。雪はほとんど降りません。

歴史

- 紀元前のローマ時代に街の基礎が築かれ、10～15世紀はブルターニュ公国の首都となりましたが、1532年にフランス王国へ併合されました。その後、フランスにおける宗教対立を終結させる法令が1598年にナントで発令されました。これが、有名な「ナントの勅令」です。
- 18世紀になると、水上交易によりナントの港はフランス随一の貿易港となり、ナントの街も繁栄しました。
- 近代のナントは、造船業をはじめとする工業・産業で栄えました。重工業の衰退などによる苦境を経験したあとは、路面電車の復活や文化産業を基盤に都市を再生しました。

都市の特徴

- ロワール・アトランティック県の県庁所在地です。
- 中心部には、ブルターニュ公爵城をはじめとする歴史的建造物や、「海底二万里」を著したナント市出身の作家ジュール・ヴェルヌの博物館などの多くの文化施設があり、文化が躍動する街です。
- 環境保全の取り組みにも力を入れており、2013年には欧州委員会から「ヨーロッパの緑の都」に選出されました。

【提携年月日】

平成21(2009)年1月31日
ナント市において姉妹都市提携の宣言書に調印した日



▲ナント市で姉妹都市宣言書に調印する両市長

【提携の経緯】

- 平成3(1991)年、「新潟・フランス協会」が設立されるにあたり、フランス大使館から交流の相手としてナント市の「アトランティック・ジャポン協会」が紹介され、両協会の間で交流が進められました。
- 平成11(1999)年に両市の地理的条件や行政面での共通点を踏まえ交流協定が結ばれたことを機に交流がいっそう拡大し、市民交流の高まりや多方面における交流の重要性から、平成21(2009)年に姉妹都市となりました。

【フォトコレクション】



▲ナント市の空中写真



▲ナント島の機械仕掛けの象



▲ブルターニュ公爵城



▲令和5(2023)年10月
市長とナントのよさこい団体「踊り囃」



ウルサン市データ

- **位 置** / 北緯35° 27'~36°
東経129° 15'~129° 27'
- **日本との時差** / なし
- **面 積** / 1062.8km²
- **平均気温** / 1月2℃ 8月26.5℃
- **年間降水量** / 1,558mm
- **人 口** / 1,126,671人 (2023年9月30日)
- **市 の 花** / バラ
- **市 の 木** / 竹
- **市 章** / 自然と人間、産業と文化が調和する未来志向の都市像と進取の気性に富む市民の姿を力強く飛翔する龍にたとえて表現。



地理

- 韓国南東部の港湾都市。南にプサン(釜山)市、北に古都キョンジュ(慶州)市が隣接しています。ソウルから高速鉄道(KTX)で2時間余り、空路(キンポ空港から)では約1時間要します。
- 風光明媚な海岸、標高1,000メートル級の山々が連なるヨンナム(嶺南)アルプスがあり、自然豊かな都市でもあります。
- テファガン(太和江)が市内中心部をゆったりと流れて市を南北に隔てており、一年を通して比較的温暖な気候です。

歴史

- ウルサンの地名は1413年の記録に残されています
- 1592~98年の文禄・慶長の役の際に日本との戦いの舞台となりました。
- 小さな農漁村でしたが、国の特定工業地区に指定された後、韓国を代表する大規模な重化学工業都市として発展しました。

都市の特徴

- 韓国の「産業首都」と呼ばれる最大の工業都市です。
- 工業都市として発展する一方で一時公害問題が深刻になりましたが、市民と行政の協働でテファガンの水質改善を実現しました。

- かつて捕鯨の中心地として栄え、韓国唯一のクジラ文化特区があります。

【提携年月日】

平成18(2006)年9月21日



▲平成18(2006)年9月
交流協定書調印式

【提携の経緯】

- 両市がともに日韓共催のワールドカップサッカーの開催地に選ばれたことから平成12(2000)年より少年サッカー交流が始まりました。ワールドカップ期間中には文化団が両市を相互訪問するなどし、交流促進の機運が高まり、協定を締結しました。

【フォトコレクション】



▲ヨンナム(嶺南)アルプスの主峰、神仏山(シンプルサン)のススキ平原



▲毎年7月、造船業と海洋資源をテーマにしたイベントが開催される造船海洋祭り



▲令和5(2023)年9月「韓日ハンガウィ祭り in 新潟」に出演した「ウルサン芸総芸術団」

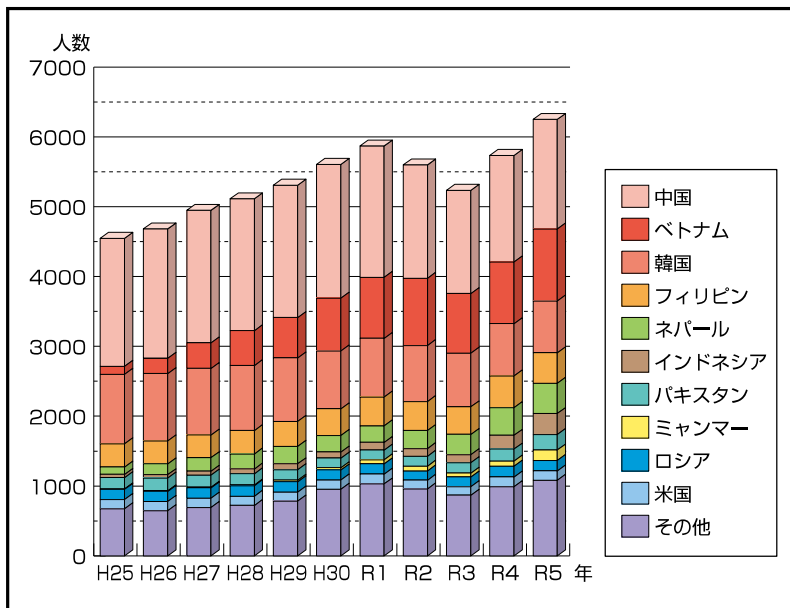
多文化共生のまちづくりをめざして

「多文化共生」とは、「国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています。

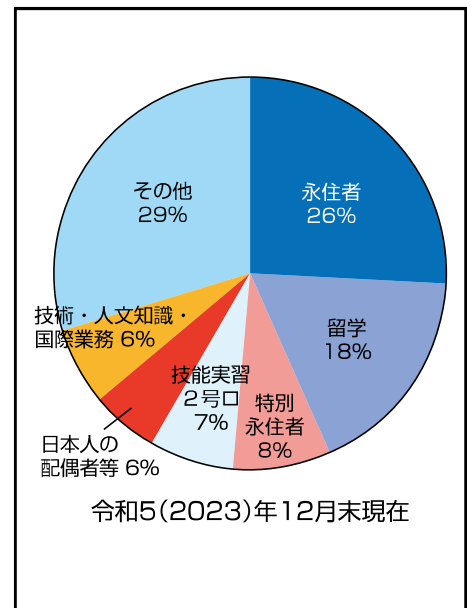
新潟市における外国人住民数は年々増加しており、コロナ禍により一時的に減少に転じてはいるものの、令和5(2023)年12月末現在では6,253人が暮らしています。新潟市と(公財)新潟市国際交流協会では、日本人住民と外国人住民が新潟市という地域社会の中で共に安心して暮らせるよう、様々な事業を通して多文化共生のまちづくりを進めています。

※新潟市が実施する事業は本章16~17ページを、(公財)新潟市国際交流協会が実施する事業は本章18~19ページをご参照ください。

外国人住民数の推移



在留資格別住民数の割合



「災害時における在住外国人支援」の取り組み

外国籍市民は日本語が十分に理解できないために正しい情報を得られなかったり、災害に対する知識がないために不安を抱えたりします。

そのため新潟市では、大規模災害が発生した際に「災害時多言語支援センター」を開設し、多言語での情報提供や相談対応を行うなど、外国籍市民を支援する体制づくりを進めています。

さらに、新たに転入してきた外国籍市民に対し、防災関連情報を多言語で提供するウェブサイトやアプリを紹介したり、地域の防災訓練への参加を呼び掛けるなどして、防災に対する意識啓発を行っています。

例年、主に留学生に対し地域の防災訓練への参加を呼び掛けています。このような地域活動への参加が、留学生に限らず外国籍市民と地域住民との交流の場ともなるよう、様々な機会の創出を図っていきます。



▲令和5(2023)年6月
地域の防災訓練にてAED操作訓練(西区)

誰にでもわかりやすく伝えるためにー「やさしい日本語」

「やさしい日本語」は、難しい言葉や表現を言い換える（書き換える）など、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。平仮名の「やさしい」には、「易しい」言葉・表現を使う、そして「優しい」態度・気持ちで伝えるという両方の意味が込められています。

さまざまな言語を母語とする外国人等に情報を伝える方法として最も望ましいのは、多言語対応ですが、日本にいるすべての外国人の母語に翻訳・通訳することは不可能です。

平成7(1995)年の阪神・淡路大震災の際、必要な情報が正しく伝わらなかったため、外国人被災者において死者・負傷者の割合が高かったことがわかりました。そのような経緯から、外国人に対して災害情報を正確かつ迅速に伝えるため「やさしい日本語」が考案されました。その後、行政・生活情報の発信にも活用されるようになり、情報の受け手である外国人からのニーズの高まりも受けて、今では多くの自治体や国際交流協会が「やさしい日本語」を取り入れています。

新潟市でも、市・区役所等の窓口やその他さまざまな場面において「やさしい日本語」でも情報提供できるように職員向けの研修会を実施するなど、普及促進と意識啓発の取り組みを進めています。



▲令和5(2023)年11月 職員向け「やさしい日本語」研修

「やさしい日本語」啓発用4コママンガ
原案：国際課 作：児玉 直樹



● やさしい日本語の例 ●

【元の単語・表現】

育児

免除します

妊娠中の人

避難してください

キャンセルする

公共交通機関でご来場ください → 電車やバスに乗って来てください

【やさしい日本語】

→ 子供を育てること

→ お金を払わなくていいです

→ お腹に赤ちゃんがいる人

→ すぐ逃げてください

→ やめる

▲「やさしい日本語」への書き換え、言い換えに正解はありません。上記は一例です。状況に応じて簡単な表現に言い換えたり、言葉を補ったりします。文章では漢字にふりがなをつけるとわかりやすくなります。

○参考資料(出入国在留管理庁、文化庁)



◀在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン



◀話し言葉のポイント

公益財団法人 新潟市国際交流協会

新潟市は、市民の国際理解の増進と友好親善の促進を図ることを目的に、財団法人新潟市国際交流協会を平成2(1990)年1月に設立し、事務所を国際交流・協力、多文化共生の活動拠点である新潟国際友好会館内に設置しました。その後、平成17(2005)年新たにオープンした生涯学習センターとの複合施設「クロスパルにいがた」内へ新潟国際友好会館と共に移転しました。

また、平成24(2012)年2月1日には公益財団法人に移行し、令和4(2022)年4月1日付で総務大臣から地域国際化協会としての認定を受けるとともに、同日付で地域国際化協会連絡協議会へも加盟しました。

新潟市国際交流協会は新潟市の支援を得て、国際化進展のため、市と役割分担しながら、各種の事業を実施しています。

- 住所 新潟市中央区礎町通3ノ町2086番地 クロスパルにいがた 新潟国際友好会館内
- TEL 025-225-2727 ○FAX 025-225-2733
- HP <https://www.nief.or.jp> ○e-mail kyokai@nief.or.jp

● 外国籍市民等・留学生を支援する事業 ●

- ・ **日本語講座**
外国籍市民等が日本語を習得するための講座です。レベル別のクラス編成で、きめ細かな授業を行っています。
- ・ **日本語学習支援講座**
外国人に日本語を教えるための知識やスキルなどを学ぶ講座です。
- ・ **地域日本語教室連携**
ボランティアで外国人に日本語を教えている地域の日本語教室への支援や、指導者・学習者間のネットワークづくりをしています。
- ・ **外国につながりをもつ子どもたちのための学習支援(にこぼるクラブ)**
小中学生を中心に学習面でのサポートや、居場所作りをしています。
- ・ **外国語による相談窓口**
外国籍市民等が日常の悩みや困りごとなどを母語等で相談できる窓口を開設しています。
- ・ **医療通訳活動への支援**
市民団体が行う通訳登録者研修の実施及び医療通訳者の派遣活動を支援しています。
- ・ **留学生国民健康保険料助成**
新潟市在住の私費留学生の国民健康保険料の一部として、5,000円を助成しています。



▲外国につながりをもつ子どもたちのための学習支援(にこぼるクラブ)



▲外国を知る講座(アメリカ文化理解講座)

● 国際理解・異文化理解を深める事業 ●

- ・ **高校生留学支援**
高校生が海外に留学し、異文化に触れ国際理解を深めることを目的に、奨学金を支給しています。
- ・ **国際交流イベント**
様々な国の人と市民が共に学び体験し、交流できるイベントを開催しています。
- ・ **外国を知る講座**
国際交流員及び外部講師による外国の文化などを紹介する講座を開催しています。
- ・ **子どもたちが世界に親しむ日**
国際交流員による外国語での絵本の読み聞かせやアクティビティなど、親子向けのイベントを開催しています。



▲子どもたちが世界に親しむ日

・日本文化体験教室

外国籍市民等が、新潟まつりの民謡流しに浴衣で参加したり、まち歩きや文化体験などを実施しています。

・留学生交流事業

留学生が、新潟の文化・生活について理解を深め、交流する機会を提供しています。



▲日本文化体験教室(新潟まつり民謡流し)

● 国際交流・協力、多文化共生に係る活動を支援する事業 ●

・市民国際活動促進補助

市民団体などが実施する国際交流・協力、多文化共生事業に対して、経費の一部を補助し、活動を支援しています。

・にいがた国際ネットワーク会議

当協会と市内の国際交流・協力、多文化共生団体が情報交換やネットワークづくりを行う会議を開催しています。

・国際交流・協力団体発表展示会

クロスパルにいがたで開催される中央公民館の文化祭と連携し、各団体の日頃の活動や成果を紹介する展示会等を開催しています。



▲国際交流・国際協力団体発表展示会

● 広報・情報提供 ●

・情報紙発行

日本語の広報紙「かけはし」と英語、中国語、韓国語、ロシア語による情報紙を毎月、ベトナム語は年4回発行しています。併せてホームページにも掲載し、希望者にはメールマガジンで配信しています。

・ホームページ、フェイスブック

ホームページは、当協会が行う事業や各種情報を日本語、英語、中国語、韓国語、ロシア語、ベトナム語、やさしい日本語で発信しています。又、フェイスブックでは、災害情報、イベント告知など役立つ情報を発信しています。



▲当協会HP(左)とフェイスブック(右)

新潟国際友好会館

新潟国際友好会館は、市民も外国人も気軽に来館し利用できる国際交流・協力、多文化共生活動の拠点施設で、次のような部屋や設備があります。お気軽にご利用ください。

- ・講座や会議に利用できる講座室
- ・ミーティングや作業を行う共同利用室
- ・さまざまな情報を交換するインフォメーション・ボード

※生涯学習センターとの共用施設として、交流ホール、調理実習室があります。

○住所 新潟市中央区礎町通3ノ町2086番地 クロスパルにいがた内



▲クロスパルにいがた(生涯学習センター・新潟国際友好会館)



国際交流員

国際交流員 (CIR : Coordinator for International Relations) は、主に地方公共団体の国際交流担当部局等において国際交流活動に従事するため、「JETプログラム」* により招致される外国青年です。新潟市には、姉妹・友好都市、交流協定都市のある5か国(アメリカ、中国、ロシア、韓国、フランス)出身の5名の交流員がおり、新潟市観光・国際交流部(国際課)及び新潟市国際交流協会で勤務しています。新潟市の国際交流や多文化共生のまちづくりの推進、市民および職員の異文化理解促進(啓発)のための業務を行っています。

※ JETプログラム：

「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称で、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会の協力の下、地方自治体等が主体となって実施している国際的な人的交流事業です。



◀JETプログラム
について
(一般財団法人
自治体国際化協会)

● 国際交流員の主な活動内容 ●

- ・ 姉妹・友好都市、交流協定都市などとの交流推進業務
- ・ 新潟市公文書、観光パンフレット等の外国語翻訳
- ・ 国際理解、国際交流イベントの企画・運営
- ・ 市内小中学校等での国際理解教室
- ・ 外国語による情報発信
- ・ 表敬訪問、国際イベント等における通訳



▲令和4(2022)年11月
小学校での文化理解講座



▲令和5(2023)年12月
韓国文化理解イベント(キムチづくり体験)



▲令和5(2023)年4月
フランス・ナント市代表団来訪

● 国際交流員からのメッセージ ●

こんにちは！ 私たちは、新潟市の国際交流の促進や、外国籍市民にも暮らしやすいまちづくりのため、日々様々な活動を行っています。活動を通し、市民の皆さんに母国の文化や国際交流に興味を持っていただければ嬉しいです。講座や学校訪問で皆さんとお会いできることを楽しみにしています！



▲新潟市の交流員紹介
(新潟市HP)

広がる市民のボランティア活動

人やもの、情報などのグローバル化の進展とともに、海外との文化や経済など多岐にわたる交流が盛んになってきています。また、市内に住む外国籍市民等も増加し、その国籍や滞在目的も多様化しています。

世界の様々な文化に触れ、理解を深めることは、地域での暮らしを豊かにすることにもつながります。また、相互依存関係にある現在の国際社会では、環境問題を始め、地球規模で考え取り組むべき課題が数多くあります。

このような状況の中で、様々な民間団体が地域に住む外国籍市民等と交流を図ったり、生活支援に取り組んだり、海外の人々に対して支援・協力を行うなど、多様な国際的活動に励んでいます。民間団体同士がネットワークを形成し情報を交換したり、協力する動きも活発になってきています。

● 国際交流 ●

交流の相手地域や分野も多岐にわたり、市内には多くの団体が世界の様々な国や地域との交流を深めようと活動しています。独自の交流事業などを通じて親睦を深め、相互理解に努めています。ホームステイの受入れにより日本の生活を体験してもらう団体や、在住外国人と一緒に旧正月を祝うなど行事を通じて友好を深める団体など、互いに学び合い友情を深めながら国際交流の輪を広げています。

● 国際協力 ●

国際社会の平和・安定のために国際協力活動に携わる団体も増えてきています。農村改良や農業技術向上、地域独自の文化や伝統の保存と継承、医療知識や土木技術の伝達、子どもたちの教育支援、学校や病院など生活環境の整備、フェアトレードの推進など、協力の形はさまざまです。いずれも、現地での自立した生活の確立を目指した支援・協力活動が行われています。

● 外国籍市民等への支援 ●

新潟市には令和5(2023)年12月末現在、約6,253人(市民の約0.81%)の外国籍市民が暮らしていますが、本市で生活する外国人のサポート活動を行う団体も数多く存在します。生活上、最も必要とされる日本語の習得については、ボランティアによる地域日本語教室が市内各地で開かれており、日本語学習支援に関する勉強会も行われています。

また、心配ごとや悩み相談などに外国語で対応する団体、留学生を地域活動に受け入れる団体、外国籍市民等のために医療相談会を開催するネットワークや医療環境の整備に努める団体など、外国籍市民等の生活を支援する活動も広がっています。



▲新潟・ガルベストーン姉妹都市提携30周年記念モニュメントの清掃



▲地域日本語教室(新潟日本語学習会)



▲日本語学習支援講座

略年表

【ガルベストン市】

1964. 3 両市で議会が姉妹都市提携を承認決議
6 新潟地震に際しガルベストン市から慰問特使が来訪
11 ガルベストン市へ牡丹の苗木とチューリップの球根を寄贈
1965. 1 姉妹都市提携。ガルベストン市にて両市長共同声明発表
5 ガルベストン市が新潟市へ爽竹桃の苗木を寄贈
- 1981.12 新潟・ガルベストン委員会発足
1983. 9 ハリケーン災害復興のために新潟市で募金活動を実施。義援金送付
1985. 8 第1回新潟市民友好の翼がガルベストン市を訪問
1989. 8 市制100周年記念「国際芸能祭」にガルベストン市文化団が参加
9 新市庁舎竣工を記念しガルベストン市がカウボーイ像などを新潟市へ寄贈
- 1994.10 万代シテイに「ガルベストン通り」誕生
1995. 1 提携30周年記念モニュメント建立
2 新潟市長を団長とする友好の翼がガルベストン市の祭り「マルディグラ」に参加
- 1997.10 環日本海駅伝にガルベストン市長をはじめとするガルベストンチームが参加
2005. 8 新潟市で提携40周年記念祝賀会開催
2006. 4 新潟市長がガルベストン市を訪問
2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にガルベストン市から市民団体（ガルベストン・新潟委員会）会長が参加
2009. 4 新潟・ガルベストン委員会がガルベストン市を訪問。2008年9月のハリケーンアイクによる被害に対する義援金を贈呈
- 2010.11 新潟市教育委員会の青少年使節団16名がガルベストン市を訪問
2013. 6 ガルベストン市民6名が西蒲区で「鯛車教室」に参加
11 ガルベストン市で第1回「鯛車教室」を開催
2015. 6 新潟市で提携50周年記念祝賀会開催
11 友好の翼、新潟市議会議長団、鯛車復活プロジェクトがガルベストン市を訪問
2017. 4 政令市移行10周年記念事業にガルベストン代表団が参加
11 新潟・ガルベストン委員会主催友好の翼がガルベストン市を訪問
- 2018.11 新潟市立万代高校とボール高校がビデオ交流
2019. 1 ガルベストン市の市民団体が市議会の諮問組織に改組され、ガルベストン姉妹都市プログラム委員会が発足
8 ガルベストン市で第7回「鯛車教室」を開催
2020. 1 新潟市で提携55周年記念祝賀会開催
ガルベストン市代表団2名が参加
- 2022.11 ガルベストン姉妹都市プログラム委員会とオンライン会議を実施
- 2023.11 ガルベストン市で第8回「鯛車教室」を開催。同時期に開催された「インターナショナル・フェスティバル」で新潟市を紹介

【ハバロフスク市】

1962. 7 市長が文化使節団団長として訪ソ。ハバロフスク市訪問の際、交流促進について協議
1964. 7 新潟地震の見舞いにハバロフスク・ウラジオストク両市から建築用木材3,000㎡が届けられる
1965. 4 姉妹都市提携。両市長が新潟市で宣言に調印。ソ連極東物産展開催
1973. 6 新潟－ハバロフスク定期航空路開設
- 1981.12 「新潟・ハバロフスク友好市民委員会」発足
1989. 8 市制100周年記念事業「国際芸能祭」にハバロフスク市から民族芸能使節団来訪
9 新潟市役所新庁舎竣工を記念し、ハバロフスク市が熊のはく製と天然石のモザイク画を寄贈
1990. 8 「マリンピア日本海」オープンにハバロフスク市がチョウザメを寄贈
1996. 9 新潟市からハバロフスク市へ道路舗装用機械を寄贈
2001. 7 「新潟・ハバロフスク・ハルビン三都市環境会議」をハバロフスク市で開催（以降、2019年まで3市持ち回りで毎年開催）
2005. 7 提携40周年記念事業を実施。代表団、文化団、スポーツ団、「友好の翼」を相互派遣。双方の市で写真展を開催
2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にハバロフスク市から副市長らが来訪
2008. 5 ハバロフスク市開基150周年記念事業に新潟市から代表団、文化団が参加
2010. 4 提携45周年を記念してハバロフスク市代表団及び同市民からなる「友好の翼」が来訪
2013. 5 ハバロフスク市開基155周年記念事業に新潟市代表団が参加
11 アムール川の洪水被害を受けたハバロフスク市の復興のため新潟市で募金活動を実施し、義援金を寄付
2014. 8 提携50周年イベントとして新潟市から代表団、文化団を派遣
2015. 7 提携50周年記念事業を実施。代表団、文化団、スポーツ団、「友好の翼」を相互派遣
2016. 5 ハバロフスク市開基158周年記念事業に新潟市文化団が参加
2017. 4 政令市移行10周年記念事業にハバロフスク市から代表団、文化団が来訪
2018. 5 ハバロフスク市開基160周年記念事業に新潟市代表団、文化団が参加
- 2020.10 姉妹都市提携55周年記念事業として、ハバロフスク市紹介展示などを開催
11 新潟市長とハバロフスク市長がオンライン会談を実施
2021. 5 ハバロフスク市開基163周年にあたり、新潟市長より祝賀ビデオメッセージを送付

【ハルビン（哈爾濱）市】

- 1979.12 友好都市提携
- 1981.12 「新潟・ハルビン友好市民の会」が設立される
- 1982. 7 新潟市民病院によるハルビン市第一医院医学研修生受け入れが始まる
- 1985. 7 新潟市水道技術交流代表団が訪中（水道技術交流が始まる）
- 9 武術太極拳代表団が新潟市太極拳協会の招きで来訪（太極拳交流が始まる）
- 1989. 9 「ハルビン・新潟友誼園」開園（提携10周年記念事業、新潟市が技術・資金協力）
- 1993. 8 新潟市青少年使節団が訪中（青少年交流が始まる）
- 1994. 8 ハルビン物産展・写真展・投資セミナーを新潟市で開催（提携15周年記念事業）
- 1995. 3 ハルビン市環境視察団が来訪（環境分野での交流が始まる）
- 1998. 6 新潟－ハルビン定期航空路開設
- 1999. 7 提携20周年記念訪問団訪中
- 11 提携20周年記念友好交流団が来訪
- 2001. 7 「新潟・ハルビン・ハバロフスク三都市環境会議」をハバロフスク市で開催（以降、2019年まで3市持ち回りで開催）
- 2002. 4 ハルビン市から苗木などの提供を受け、新潟市に「ライラック通り」を建設
- 2004. 6 提携25周年記念友好交流団が来訪
- 2005. 7 ハルビン市で新潟市投資環境説明会を初めて開催
- 2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にハルビン市代表団が出席
- 2009. 9 「ハルビン金代文化展」開催（提携30周年記念事業）
- 9 ハルビン市太極拳代表団が来訪し、国体のデモンストレーション演武に参加
- 11 「友好の翼」市民訪問団訪中（提携30周年記念事業）
- 2012. 6 松花江湿地観光フェスティバルに新潟市代表団が参加
- 2015. 2 ハルビン交響楽団が新潟市で公演（提携35周年記念事業）
- 2017. 4 政令市移行10周年記念事業にハルビン市代表団が出席
- 2019. 9 「ハルビン・新潟友誼園」技術交流団を派遣、園内の修繕を行う（提携40周年記念事業）
- 2019.10 提携40周年記念代表団が来訪し、ハルビン交響楽団公演、ハルビン投資・観光説明会を開催
- 2020. 1 提携40周年を記念し、市長がハルビン市を訪問。新たに交流の「覚書」に調印
- 1 新潟市がハルビン市へマスク3万枚を寄贈する
- 4 ハルビン市より新潟市へマスク3万6000枚が寄贈される
- 2020. 8 新潟市長とハルビン市長がオンライン会談を実施

【ウラジオストク市】

- 1964. 7 新潟地震の見舞いにウラジオストク・ハバロフスク両市から建築用木材3,000mを贈られる
- 1987. 5 ウラジオストク市の沿岸貿易見本市に新潟市から参加
- 1989. 5 新潟港からウラジオストク港へ初の観光船就航
- 1990.10 ウラジオストク市在住の少年がやけどの治療のため新潟市民病院に入院
- 1991. 2 姉妹都市提携。両市長が新潟市で宣言に調印
- 7 ウラジオストク市で「新潟ウィーク」開催
- 9 新潟市職員をウラジオストク市に日本語教師として10ヵ月間派遣（以後2004年まで継続）
- 10 新潟空港から初の直行チャーター便就航
- 1992. 1 ウラジオストク市が対外的に開放される
- 4 「新潟・ハバロフスク友好市民委員会」が「新潟・ハバロフスク・ウラジオストク友好市民委員会」と改称
- 5 新潟市で「ウラジオストクウィーク」開催
- 7 ウラジオストク市開放記念式典に新潟市長参加。新潟市からウラジオストク市の水族館へ錦鯉を寄贈
- 7 ウラジオストク市が「マリンピア日本海」にカワカマスなどを寄贈
- 1993. 4 新潟－ウラジオストク定期航空路開設
- 1998. 7 新潟港開港130周年記念事業としてウラジオストクへの日本海クルーズを実施
- 1999. 3 ウラジオストク空港国際ターミナル開設記念式典に新潟市から代表団が参加
- 2001. 7 提携10周年記念事業を実施
- 2006. 1 ウラジオストクから「友好のクルーズ」受入
- 2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にウラジオストク市から副市長らが来訪
- 2008. 9 新潟港開港140周年記念事業として企画展「浦潮とよばれた街」を新潟市美術館で開催
- 2010. 7 ウラジオストク市開基150周年記念事業に新潟市から代表団、文化団が参加
- 2011. 7 提携20周年記念事業を実施。代表団、文化団、スポーツ団を相互派遣。観光関係者を派遣
- 2014. 8 ウラジオストク市代表団が新潟まつりに合わせ来訪
- 2015. 7 ウラジオストク開基155周年記念事業・姉妹都市会議に新潟市から参加
- 2016. 7 提携25周年記念事業として生け花ワークショップをウラジオストク市で実施
- 11 提携25周年記念事業としてスポーツ団を受入
- 2017. 4 政令市移行10周年記念事業にウラジオストク市から代表団、文化団が来訪
- 2019.11 「第5回ジャパンフェスティバルinウラジオストク」に新潟市文化団が参加
- 2021. 4 新潟市長とウラジオストク市長がオンライン会談を実施
- 7 提携30周年記念事業としてウラジオストクフェアなどを実施

【ビロビジャン市】

1992. 8 豊栄市とビロビジャン市が姉妹都市提携
両市長がビロビジャン市で宣言に調印
その後代表団の交換、児童絵画の交流が実施され、また日本語学習に関する参考図書を豊栄市から贈呈
2005. 3 新潟市と豊栄市が合併
新潟市が豊栄市とビロビジャン市の姉妹都市関係を引き継ぐ
- 8 新潟市長を団長とする代表団がビロビジャン市を訪問
両市長が新潟市で宣言に調印
- 11 新潟で開催された「食と花の世界フォーラム」にビロビジャン市から参加
2006. 8 新潟市文化団がビロビジャン市で踊りの公演
ビロビジャン市スポーツ団(テニス)が来訪。親善試合を実施
- 9 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク、ウラジオストクを訪問
- 11 「新潟国際ビジネスメッセ」にビロビジャン市から参加(以降2011年まで毎年参加)
2007. 4 政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」にビロビジャン市長一行が来訪
「新潟・ハバロフスク・ウラジオストク友好市民委員会」が「新潟・ハバロフスク・ウラジオストク・ビロビジャン友好市民委員会」と改称
- 7 ビロビジャン、ウラジオストク、ハバロフスク市青少年使節団が来訪
- 9 ビロビジャン市市制70周年記念事業に新潟市から代表団が参加
2008. 8 新潟市スポーツ団(テニス)がビロビジャン市を訪問。親善試合を実施
2010. 5 新潟市文化団がビロビジャン市を訪問
- 7 旧豊栄市とビロビジャン市の姉妹関係を本市が引き継いで5周年を迎えることを記念し、北区文化会館竣工に合わせてビロビジャン市文化団が公演
2012. 9 ビロビジャン市市制75周年記念事業に新潟市から代表団と文化団が参加
2013. 7 ビロビジャン、ハバロフスク市青少年使節団が来訪
- 11 アムール川の洪水被害を受けたビロビジャン市の復興のために新潟市で募金活動を実施し、義援金を寄付
2014. 8 新潟市代表団がビロビジャン市を訪問
- 9 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク市を訪問
2016. 3 ビロビジャン市代表団、経済関係者が来訪
- 7 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク市を訪問
2017. 4 政令市移行10周年記念事業にビロビジャン市から代表団が来訪
- 7 ビロビジャン、ハバロフスク市青少年使節団が来訪
- 9 ビロビジャン市市制80周年記念事業に新潟市から代表団と文化団が参加
2018. 7 新潟市青少年使節団がビロビジャン、ハバロフスク市を訪問
2019. 7 ビロビジャン、ハバロフスク市青少年使節団が来訪

【ナント市】



















1991. 1 「新潟・フランス協会」設立
1996. 9 ナント市で「新潟フェア」開催
- 1998.11 新潟市で「ナントフェア」開催
1999. 6 ナント市で交流協定調印
2006. 5 「日仏都市会議2006」(新潟市)開催
2007. 4 新潟市民代表団(フランス協会)ナント市訪問
「ジャポンフェア」に参加、日本の伝統・文化を紹介
- 4 ナント市代表団が政令市移行記念「姉妹・友好・交流協定都市会議」に出席
- 7 「日仏都市・文化対話」(ナント市)に参加
- 2008.10 両市が「第1回日仏自治体交流会議」(ナンシー市)に参加
2009. 1 ナント市において姉妹都市提携
Noismがナント市でワークショップを実施
- 2 「日仏都市・文化対話 in Niigata」開催
- 5 第10回ナント国際フロラリー出展
- 10 ナント市長一行が来訪、姉妹都市提携覚書に調印、記念写真展、記念植樹を実施
2010. 4 ラ・フォル・ジュルネ新潟「熱狂の日」音楽祭開催。以降、2017年まで毎年開催
- 2010.10 ナント市主催「日本フェア」に新潟市文化団が参加
2012. 4 新潟市長がフランス政府よりレジオン・ドヌール勲章受勲
2013. 9 新潟市代表団が「エコシティ世界サミット」(ナント市)に参加
- 2015.10 新潟市で「日仏中韓都市・文化対話2015」開催
2017. 4 政令市移行10周年記念行事にナント市代表団参加
- 2018.10 フランスにおける日本まつり「ジャポニスム2018」関連事業開催(パリ・ナント)
- 10 「第6回日仏自治体交流会議」(熊本市)に参加
2019. 5 新潟・ナント姉妹都市提携10周年記念事業(ナント市)
- 第12回ナント国際フロラリー出展
- 10 新潟・ナント姉妹都市提携10周年記念事業(新潟市)
- 2020.10 新潟市長とナント市副市長がオンライン会談開催
- 11 新潟市和食料理人とナント市調理専門学校がオンライン交流実施
- 11 新潟市立万代高校とナント市ジョリブリー専門学校が定期オンライン交流開始
- 12 日本アニメ・マンガ専門学校とジョリブリー専門学校がオンライン交流実施
2021. 3 新潟市和食料理人とナント市フレンチ料理人がオンライン交流実施
2022. 7 ナント市主催「都市とメンタルヘルス国際会議」に新潟市民のインタビューを提供
- 2022.10 「第7回日仏自治体交流会議」(エクサンプロヴァンス市)に参加
2023. 4 ナント市代表団が新潟市を訪問
- 2023.10 新潟市代表団がナント市を訪問。スポーツに関する姉妹都市会議に参加し、ラグビーWCパブリックビューイング会場にて新潟市PR

【ウルサン(蔚山)広域市】

- 2000. 8 ウルサン市の少年サッカーチームが来訪
「日韓親善少年サッカー大会」を開催し、
ホームステイなどで交流
- 2002. 6 ワールドカップ・サッカー期間中、両市の
文化団が相互に訪問し、公演を披露
- 2005.11 新潟市長がウルサン市を訪問、「交流意向書」
と「教育交流意向書」に調印
- 12 ウルサン市教育庁職員が来訪。新潟市で「教
育交流協定」締結
- 2006. 8 ウルサン市教育庁が派遣する青少年使節団
が来訪。ホームステイ交流などを行う
- 9 ウルサン市長が来訪。「交流協定」を締結
- 2007. 8 「はばたけ世界こどもサミット」にウルサン
市教育庁代表団が出席
- 9 新潟市青少年使節団がウルサン市を訪問。
学校訪問やホームステイ実施
- 2010. 3 市民が企画した「ウルサン友好の翼」がウル
サン市訪問(以後不定期実施)
- 2011. 8 「新潟まつり」に合わせウルサン市代表団と
サムルノリ公演団来訪
- 2012. 7 ウルサン市の市民環境団体が来訪。水辺環
境に関して市内のNPOと交流
- 10 新潟総踊りメンバーで構成する文化団が
「チョヨン文化祭」で公演
- 2013. 8 ウルサン市の親子記者訪問団が来訪。新潟
市の親子と交流
- 10 新潟市の親子記者訪問団がウルサン市を訪
問
- 2014. 7 新潟市の高校生がウルサン市教育庁主催「国
際学生フォーラム」に参加
- 2015. 6 ウルサン市民有志による「新潟を愛する会」
が新潟市を訪問
- 10 市内の文化芸能団体をウルサン市に派遣。
「チョヨン文化祭」で公演
- 2016. 8 新潟市で交流協定締結10周年記念行事開
催。代表団と文化団が来訪
- 9 ウルサン市で10周年記念行事開催。代表団
と文化団がウルサン市訪問
- 2017. 4 政令市移行10周年記念事業にウルサン市代
表団・文化団が来訪
- 8 新潟市で青年ワークショップ開催。ウルサ
ン市の高校生・大学生が来訪
- 2018. 7 新潟市の青年団をウルサン市に派遣。同年
代の学生と交流
- 2019.10 新潟市の専門学校生とウルサン市の大学生
がオンラインで交流
- 2021. 9 交流協定締結15周年 新潟市長とウルサン
市長がオンラインで会談
15周年関連として両市大学生のオンライン
交流会を開催
ウルサン市を紹介する写真パネル展開催
- 2023. 9 ウルサン市の文化団が来訪。「韓日ハンガ
ウィ祭りin新潟2023」に出演

新潟市と海外とのつながり

西暦	年号	外国都市との交流
1858	安政5	
1869	明治2	
1870	明治3	
1896	明治32	
1931	昭和6	
1935	昭和10	
1959	昭和34	
1963	昭和38	 キング・ストーン・アポン・ハル市で開催された新潟市児童画展をきっかけに、両市が交流を開始
1965	昭和40	 ガルベストーン市と姉妹都市提携  ハバロフスク市と姉妹都市提携
1970	昭和45	
1972	昭和47	
1973	昭和48	
1978	昭和53	
1979	昭和54	 ハルビン市と友好都市提携
1988	昭和63	
1990	平成2	
1991	平成3	 ウラジオストク市と姉妹都市提携
1992	平成4	
1993	平成5	
1994	平成6	
1995	平成7	
1996	平成8	
1997	平成9	
1998	平成10	
1999	平成11	
2002	平成14	
2005	平成17	 豊栄市と  ビロビジャン市の姉妹都市関係(1992年提携)を引き継ぐ
2006	平成18	 ウルサン広域市と交流協定締結
2007	平成19	
2008	平成20	 済南市と交流開始
2009	平成21	 ナント市と姉妹都市提携
2010	平成22	
2011	平成23	
2013	平成25	
2015	平成27	 青島市、  チョンジュ(清州)市と交流開始
2016	平成28	
2018	平成30	
2019	平成31	
2021	令和3	
2022	令和4	
2023	令和5	

外交・組織	港湾・空港	国際会議・大会等の招致
英国領事館開設(1879年閉鎖) ドイツ領事館開設(1882年閉鎖) オランダ領事館開設(1870年閉鎖) 米国領事館開設(同年閉鎖)	日米修好通商条約により五港の一つに指定 新潟港開港	
	 政府の特定助成航路としてウラジオストク間郵便定期航路開設  北朝鮮との市命令定期航路開設  北朝鮮との政府命令航路開設 在日朝鮮人帰還事業が始まる	
日ソ沿岸市長会設立(1992年、「日ロ沿岸市長会」に名称変更) 市長が朝鮮対外文化連絡協会の招きで訪朝、キム・イルソン(金日成)首相と会談 新潟市長を代表幹事とする「日朝友好貿易促進日本海沿岸都市会議」設立(2003年6月活動中止)	 ナホトカ貨物船航路開設  ハバロフスク線開設(現在は夏季チャーター便)	
駐新潟韓国総領事館開設 新潟県ソウル事務所開設	 ソウル線開設  東南アジアコンテナ航路開設  釜山コンテナ航路開設	アジア卓球選手権開催
在新潟フランス名誉領事館開設 在新潟ロシア連邦総領事館開設	ウラジオストク港と姉妹港協定  ウラジオストク客船航路開設  ウラジオストク線開設(現在は夏季チャーター便)	
新潟県大連経済事務所開設	 中国コンテナ航路開設 大連港と友好港協定	
新潟市北京事務所開設 在新潟モンゴル国名誉領事館開設	 上海経由西安線開設(現在上海線のみ)  ハルビン線開設  グアム線開設(現在 運休中)  北東アジアコンテナ航路開設	サッカーワールドカップ日韓共同開催の会場の一つとなる
中国駐新潟総領事館開設	 ザルビノ航路開設(現在 運休中)  台北線開設	APEC新潟食料安全保障担当大臣会合開催
	新潟開港150周年  香港線開設(現在 運休中)	G7新潟農業大臣会合開催 平昌2018冬季オリンピック フィギュアスケート・ロシア選手合宿受入
		G20新潟農業大臣会合開催 東京2020夏季オリンピック フランス空手チーム合宿受入 ラムサール条約の湿地自治体認証を受ける G7新潟財務大臣・中央銀行総裁会議開催

市民憲章

わたしたちをめざす新潟

信濃、阿賀野のゆたかな川の流が海にそそぎいるところ、
ここがわたしたちのまち新潟。日本海に沈む夕日が美しい。

海のかなたの国ぐににむけて開かれたこの港まちは、流れの
ほとりの木のように、いよいよ育ち、栄えている。人びとは、昔から、
力を合わせ、ねばり強く、この自由な開かれたまちを築いてきた。

さあ、わたしたちも、いま、たしかな一歩を踏み出そう。

わたしたちが望む新潟をめざして！

ゆたかな海の幸と田畑のみり。
新潟は、自然がいかされ、まもられるまち。

働くよろこび、憩いの静けさ。
新潟は、活気にあふれ、落ちつきのあるまち。

すこやかな生活は、わたしたちすべての願い。
新潟は、みんなで生きるために、助け合うまち。

はぐくむ心が、いのちを育てる。
新潟は、一人ひとりが大切にされ、いかされるまち。

海のむこうは、友となる国ぐに。
わたしたちは、世界の平和のかけ橋となる。

(平成元(1989)年4月1日制定)

ご意見・お問い合わせはこちらへ

新潟市観光・国際交流部 国際課

TEL:025-226-1673 FAX:025-225-3255

E-Mail:kokusai@city.niigata.lg.jp